

幼稚園における花育活動

作成者：東京都中央区立月島幼稚園 園長 岩城 眞佐子

■ 実施主体

名称：東京都中央区立月島幼稚園

担当窓口：園長 岩城 眞佐子

所在地：東京都中央区月島1-9-7

■ 対象者・人数：3年保育 在園児180名 花育活動は5歳児（年長67名）を対象にしている

■ 取組地域：東京都中央区月島地区

■ 概要



- 幼稚園の年長組を対象に年間5回の花育の活動を行っている。園行事との兼ね合いを考慮し、年間計画を立てて、育苗、蝶についての生き物教室、自然物を使ったリース作り、フラワーアレンジメントなどと、多様な体験ができるようにしている。
- 花育アドバイザー（グリーンアドバイザー）を講師に迎え、保護者のボランティアの援助を受けて活動を進めている。
体験を積み重ね、保護者も活動に参加することで、花育のねらいや幼児の変容を理解し、積極的に協力してくれている。
- 幼児は体験を重ねながら植物への関心をもち、知識を深めたり、心情面が育ったりしている。

■ 取組開始時期・経緯

平成23年度から、幼稚園の栽培活動に花育アドバイザーをゲストティーチャーとして招き、幼児の経験を次に活かすようにしながら、この取り組みを始める。

- | | |
|--------|--------------|
| ① 年長5月 | ② 年長5～6月 |
| ③ 年長7月 | ④ 年長11月 |
| ④ 年長2月 | の計5回 行なっている。 |

■ 取組開始時期・経緯

幼稚園の教育は、文部科学省が告示する「幼稚園教育要領」に則ってなされている。その要領は、「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の5つの領域から成り立っている。

幼児は5つの領域に関わる様々な活動を通して、小学校以降の学習の基盤となる学びをしている。「花育」は主に領域「環境」に関わるねらいを経験できる活動と考えられる。花育アドバイザーの先生に入っただくことで、苗の育て方、扱い方など専門的な知識を分かりやすく教えていただき、教員の勉強にもなっていることも大きな効果である。

【取り組み内容】

◆事例①「野菜苗の植え付け」

■ 時期：5月上旬

■ 苗の種類

- ・きゅうり ・ナス ・枝豆
- ・トマト ・小玉スイカ 等

■ 園芸資材

- ・プランター（深さは、40～50cm程度）
- ・土は培養土
- ・土すくい
- ・ジョーロ（350mlペットボトルにシャワーのキャップをつけたものを園児分準備する）
- ・ラベル（幼児が準備する）
- ・支柱

■ 指導者：花育アドバイザー

補助者：園児のお母さんボランティア5名

■ 当日の流れ

- ・ボランティアの保護者に活動の流れを説明する。
（保護者は、自分の子どもがいないグループを担当する。）
- ・苗や用具を並べたり準備をする。
- ・1学級（クラス）ずつ、プランターを囲んで活動する。
花育アドバイザーから苗の扱い方（ポットからの取り出し方や扱い方など）について話を聞く。
- ・グループごとにプランターに苗を植える。
- ・大きなプランターであれば、野菜苗の周りにひまわりなどの花の種も植えると良い。
- ・ペットボトルのジョーロで各自水やりをする。
- ・支柱の立て方や苗の育て方について、花育アドバイザーの先生がやって見せながら説明をする。
- ・翌日からも水やりを欠かさないように…と話をしていただき、お礼のあいさつをして、活動を終わる。



野菜苗や土の準備



大型のプランター



野菜苗の植え付け

◆事例②「花苗の植え付け」(ペットボトルのハンギングバスケット)

■ 時期：5月下旬

■ 苗の種類

- ・ベゴニア ・トレニア ・マリーゴールド等

■ 園芸資材

- ・(事前の準備)

2リットルの角形のペットボトルを底から14cmくらいのところで切る。切り口にビニールテープを貼り、指を切らないように保護する。

背に穴を2か所開け、針金を通して、フックが掛けられようにする。底には4か所穴を開けておく。

(水が流れるように) 表面には幼児が絵を描き、自分のオリジナルポットにする。

- ・培養土 ・土入れ ・割り箸 ・S字フック
- ・ジョーロ (350mlペットボトルにシャワーのキャップをつけたものを園児分準備する)

■ 指導者：花育アドバイザー

補助者：園児のお母さんボランティア5名

■ 当日の流れ

- ・ボランティアの保護者に活動の流れを説明する。担当するグループを決める。
- ・暑くなる時期なので、熱中症などの対策として室内で活動する。使用するテーブルには、新聞紙を敷いて動かないようにテープで止めておく。
- ・グループごとにバケツに培養土を入れておく。土入れ、割り箸も人数分準備する。
- ・初めの挨拶をする。花育アドバイザーからペットボトルに入れる土の量や苗の扱い方(カップからの取り出し方や扱い方など)について話を聞く。
- ・各自、自分のポットに花苗を植える。
- ・苗を入れて、ポットの周りに土を入れていく。割り箸で土を隙間に入れながら必要な量の培養土を入れる。
- ・S字フックを玄関前のポットを掛けられるところに各自掛け、ジョーロで水やりをする。
- ・席に戻り、お礼のあいさつをして活動を終了する。



ペットボトルのハンギングバスケット



ペットボトルの切り口にビニールテープを巻く



ベゴニアの花苗を植える

◆事例③「カレーパーティーとセンニチコウの苗の植え付け」

■ 時期：7月下旬

■ 苗の種類：センニチコウの苗

■ 園芸資材

- ・プランター深さ20cmくらいのもので良い。
- ・土は腐葉土を混ぜて、石灰を入れておく。
- ・土すくい
- ・ジョーロ（350mlペットボトルにシャワーのキャップをつけたものを園児分準備する）



大型プランターにセンニチコウの苗を植える

■ 指導者：花育アドバイザー

■ 当日の流れ

- ・5月に植えた野菜の苗が育ってきたら、幼児は前日までにカレーに入れる、玉ねぎ、ナス、サラダ用のキュウリなどを収穫しておく。
- ・カレーに入れる具材を包丁で切って調理する。（保護者が手伝いながら園児が切る）
- ・カレーが出来上がるまで、センニチコウの植付けを行う。
このセンニチコウは、開花したらドライフラワーにしておき、秋にリースづくりの材料として活用する。
- ・花育アドバイザーからペットボトルに入れる土の量や苗の扱い方（ポットからの取り出し方や扱い方など）について話を聞く。
- ・3人1組になり、センニチコウの苗を植える。
- ・ジョーロで水やりをする。
- ・お礼のあいさつをして、カレーパーティーの準備を行う。
- ・花育アドバイザーと一緒に会食する。



野菜のまわりにヒマワリを植えている



小玉のメロンも大きく育っている



野菜たっぷりのカレー

◆事例④「リースづくり」

■ 時期：11月中旬

■ 材料：

- ・リースの土台（つる性の植物をリース状にしたもの…乾燥している状態）
- ・リボン、モールなど
- ・センニチコウ（7月に植えた）の花をドライにしたもの、メタセコイヤ、ドングリ（近隣の公園で見つけてきたもの）テイオウカイザイクの花など
- ・紙皿
- ・ボンド

■ 指導者：花育アドバイザー

補助者：園児のお母さんボランティア5名

■ 当日の流れ

- ・センニチコウは、適当な花の大きさになったら、摘んで乾燥させておく。
他にも飾りとなるドングリやメタセコイヤの実などを集めて乾燥させておく、ドングリは虫が出るので煮沸しておくが良い。
- ・ボランティアの保護者に活動の流れを説明する。担当するグループを決める。
- ・室内でグループごとに座り活動する。
紙皿に各自の材料を各種載せ、リース台も一緒に置いておく。
- ・ボンドは、一人ずつ作業しやすいようにダンボール片に出しておく。
初めの挨拶をする。花育アドバイザーからリースづくりについて話を聞く。
- ・各自、作業を進める。
- ・テーブルに1人はボランティアがつくようにして、作業しやすいようコツを知らせていく。
- ・出来上がったリースを紙皿に載せ、名前のカードを付けてテーブルの上に置き、ボンドを乾かす。
- ・友達の作品を見る。
- ・テーブルの上を片付ける。
- ・お礼のあいさつをして活動を終了する。



ドライフラワーや木の実のリース



リースの材料



先生から作り方を教えてもらう



リボンを土台に巻く

◆事例⑤「ひな祭りのフラワーアレンジメント」

■ 時期：2月下旬

■ 花の種類：・桃 ・チューリップ
 ・菜の花 ・スプレーカーネーション
 ・グリーンとなる葉 など

■ 材料：

・カレー用発泡スチロール皿 ・吸水性スポンジ
 ・容器の周りに飾る紙（赤紙） ・ハサミ（切花用）

■ 指導者：花育アドバイザー

協力者：花市場の方、華道の先生方

補助者：園児のお母さんボランティア数名

■ 当日の流れ

- ・ボランティアの保護者に活動の流れを説明する。担当するグループを決める。
- ・室内で活動する。遊戯室内にテーブルを出し、グループごとに座るようにする。
- ・テーブルに花材を一人分ずつ置いておく。
 容器に吸水性スポンジを入れたものを園児が入口で受取り着席する。
- ・初めの挨拶をする。
- ・市場の方から「花がどこで育てられているかやどのようにお店まで運ばれてくるかなどのお話」と花の名前の説明を聞く。
- ・花育アドバイザーからアレンジメントの作り方について話を聞く。
 （ハサミの使い方については、安全な使い方を指導する）
 幼児が、自分で考えて花の長さを決めたり、アレンジができるように大人が補助をする。
- ・ハサミは、安全面に配慮して、使用する直前に配り、使い終わったら回収する。
- ・花育アドバイザーの先生方やお母さんボランティアには、幼児の様子を見ていただきながら、声かけをしていただく。
- ・出来上がったアレンジメントを台の上などに飾る。友達の商品を見る。
- ・席に戻り、お礼を言って活動を終わる。



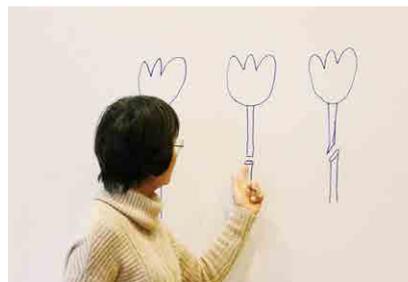
ひな祭りをイメージしたフラワーアレンジメント



切花用のハサミを使って花を切る



花市場の方から
花の流通や花の説明を聞く



花の切り方の説明
「茎は、斜めに切ります」



子供達は、集中して
先生のお話を聞いている。

■ 参加者（保護者）からの感想

- ・ 花育アドバイザーの先生に教えてもらったことをよく覚えていて、水やりのタイミングなどをお母さんが言わなくても自分で行っている。
- ・ 家族で、花や野菜のことを話題にすることが多くなった。
- ・ 幼稚園で花をアレンジして飾ったことがうれしくて、家族の誕生日に花を飾ろうと言ったので、子供と一緒に花を買いに行った。
- ・ 「生き物教室」で訪れた日比谷公園に、よく遊びに行くようになった。
- ・ 子供も親も一緒に花の名前をたくさん覚えた。
- ・ 子供が自然に興味をもつようになった。花、昆虫などが生きていることを実感している。植物にも命があることを知り、大切にするようになった。
- ・ 花育ボランティアに参加して、子どもの興味や関心、活動の意義を知ることができた。とても大事な活動だと思う。
- ・ 幼稚園の活動から4年が経ち、今では小学校3年生になりました。あの頃植えた多肉植物がまだ育っています。

■ これまでの成果

- ・ 1年を通して、幼児は様々な花や植物に触れることができ、以前に比べて、植物の育ちに興味を示し、植物の成長や変化に気付くことが増えた。苗の扱い方、土の寄せ方、道具の使い方が年度当初に比べて格段に上手になり、花の名前をよく覚えるようになった。
- ・ 保護者のボランティアを中心に、この花育活動の重要性を理解する家庭が増えた。
- ・ 植物の栽培活動は、身近に「命」を感じる機会で、教育的な意義のある活動として継続していきたい。

